

に行き十六世紀の終末には南北兩派が合一し爾來歐洲各國が各自の調子を取つて進むに至つた十七世紀になると歐洲畫家にして伊太利に遊ぶもの益多く、斯くてボロニア畫家及びミケルア
ンゼロ・カラバチオ(Michelangelo Amerighi da Caravaggio)が近代繪畫の祖となり得たのである。

新著紹介

○五萬分一京都近郊圖

菊全判 陸地測量部發行
七月 定價四拾五錢

近來測量部は二萬五千分一、五萬分一、二十萬分一の各圖を基として都市地方の色刷地圖を發行して、大に世間の使用に便にしてゐる。この圖もその一つ三月に發行した近郊圖を多色刷にしたものである。北東には琵琶湖の南部を收め、中央の北縁には鞍馬を入れ、南には巨椋池を出し、西は龜岡盆地を含むで東西約十里、南北約七里の地に互つてゐる。五萬分一地形圖の上へ〇—一〇〇米、一〇〇—二〇〇、二〇〇—四〇〇、四〇〇—六〇〇、及び八〇〇米以上の五階の段彩とし、其の色は萬國圖のものに近くて二〇〇米以上はかなり赤い。地圖の内容としては名所舊蹟を探り或は學術的調査を爲さんとする人々の便に供する爲め部分修正を施して略現況を示し

てゐる。之と共に名所舊蹟には羅馬字をも註記してあつて一種の國際地圖を以て任じてゐる。たゞ五萬分一地形圖上の誤記などは正されてゐず、羅馬字が日本式になると同時に隨分變挺のものさへある。今後同部に於けるかゝる地圖作製の參考にもなり且つ購入者の絶對の信頼を豫防する爲め、上記の誤りの點を指摘しておくこと次の如くである。羅馬字で第一に目につくのは宇治町は Uai、宇治川は Uisawa とあり、巨椋ノ池は外國人の Fujiyama 式で Oguraike であり、保津川(ホツツガハ)が Hotugawa と誤讀されてをり、學術調査の基となすと唱へておきながら帝國大學も博物館も動物園も植物園も横文字の註記がない。五萬分一圖葉の誤が其のまゝである例は桂川の西岸に近い松尾谷の西芳寺北西、山嘴上の標高で百米以上の地點に一六・二とあることで、之は二萬五千分一地形圖を見て一六一米七即ち切上げて一六二米なるを知り、其の誤を正す手數がある。段彩式地圖を作ることには我等地理教員が從來經驗してゐた様に山嘴の上にポツポツと獨立して高距曲線一本卷きの小隆起を拾ふ繁雜な仕事があるが、此の圖はさすがに測量部のものだけあつて拾ひそねたものは石山の伽藍山を始めとし二十數箇所過ぎない、然し唯誰かが誤る如くこの地形圖にも圖の縁邊で四百米以上の色を入れるべき所が少しく大きく、^{タナカ}上山の一支の矢筈ヶ嶽の北方にぬけてゐる。段彩式地圖を作る場合に地圖の縁邊部は特に注意して塗らねばならぬことは銘記すべきことである。因

に曲線を拾ふ場所に山麓又は平地の中では五萬分一では註記の爲めに妨げられて之をトレース出来ぬことがある。かゝる場合には二萬五千分一、二萬分一等のより大なる縮尺の地形圖があれば之を参考しなければならぬ、無理に五萬分一圖のみに依ると、茲に紹介しつゝある地形圖に於て懸崖狀地の北東の藥師山に於ける百米線の境界の様に不自然なものになつて道路の屈曲が地形に制せられてゐる状態を逸してふ。

是れは偏に製圖師が御手のもの、二萬五千分一を参照しなかつた結果である。兎も角練達せる技量で出来上つた測圖の結果を心なき製圖の結果其の眞價を傷けるのは地形圖の有難味を知らぬ者のすることである。最後に一言したいのは假令かゝる總合地形圖が新しく投影して作つたのでなくて、嚴密に

云ふと連接し得ない多面體式圖葉を唯つぎ合したのであるから經緯度が引けないとしても、圖枠の餘地にだけ、どれかの經緯度を表はして置くことは地球上に於ける其の圖の位置を示すことに於て必要である。京都をかいいた地學論文には北緯三十五度の緯線は四條通の僅か南方を通るのを舉げる位であるから是非この註記はありたいものである。尤も圖廓の割あてから日本の二十萬分一帝國圖には北緯三十五度の註記も線の一端も表はされてゐない。測量部の地圖製作が年と共に新生面を開拓してゆくことは地學界の慶事であると共に羅馬字も從つて地名の讀み方も、段彩式地圖に對するアップレンシジョンも總てが地學愛好者の心を以て之に對することを祈らざ

るを得ぬ。(S)

○難波津の研究

八木傳 (非賣品)

皇陵第九號の拔刷であるが、大阪での郷土學者たる八木傳君の努力的考證である、大阪の沖積平地は歴史以前の生成であるといふことを、森小路發掘の石器時代遺蹟及遺物の分布が、地下五寸位にあるといふ新しい發見の事實をつかまへて立論し、やがて今の木津川沿岸が難波であるとのべ、古代の姫島は行基年譜、天平十三年にある比賣島堀川の地で西成郡津守で今の三軒家町であるとのべ、難波碕は古の前だれ島といつた土地で、前内裏の意である。孝德天皇の難波豐崎宮のあつた所で、難波驛の西方木津川一丁目(大正橋東詰)の土地である。

安閑記に出る大隅島は當然姫島に近い土地であつて、前内裏島は姫島の對岸にあるから、大隅宮の所在地だと考へてよい、古い田襲島は天王寺の西戌亥の方よりの海邊なり、海道より南とあるから(方角抄)七瀬町附近であらう、從つて難波の渡といふのは攝津國西成郡津守にあつた難波度院の名稱から考察しても凡そ天王寺の西方の濱であつたと考定される、さうして今の堀江町は往古難波の中心であるといふ種々の證據をのべてある、凡そかうした研究はその土地の人でなくては調査が親切に出来ないものである、今日迄多くの歴史家によつて、いろ／＼と議論された難波の都の跡がかやうに徐々に闡明されてくるのは、全く郷土研究の賜といつてよいと思は

れる。八木博君は大阪東區平野町二、廿五に住んでゐられる
篤學の人は刺を通じてこの抜刷を所望されたならば快く分與
してくれられることと思ふ。(藤田)

雜報

○丹波龜岡の西方を震央とする地震 「海と空」第

一一卷第七號(七月)所載、棚橋嘉市氏の「五月末より六月初
めに至る京都、龜岡盆地西方の小地震」と題する記事を摘記
すると次の如くである。本年五月末から六月初めに亘り京都
附近には次の地震が観測され又は感ぜられた。

- 一、五月二十九日一〇時四〇分頃 南桑田郡西別院村 微震
- 二、五月三十一日一時五五分二秒(震央發震時計算値)京
都弱震、家屋かなり動搖す。京阪神地方有感、大阪微震
- 神戸微震、南桑田郡本梅(ホンメ)村は強震で時計止まる
- 三、六月一日一三時三七分頃 北桑田郡宮島村微震。
- 四、六月四日一八時七分三二秒(震央發震時計算値)京都弱
震、家屋かなり動搖す。附近有感。
- 五、六月六日一四時二〇分五三秒(同上) 京都弱震、家屋
かなり動搖し戸障子鳴る。京阪神地方有感。大阪微震、
神戸は町にて感じた人あり。二と同じく本梅村は強震、
時計止まる。
- 六、六月七日八時二五分頃、乙訓郡向日町 微震。

斯く十日の間に六回の有感地震が小區域に續發したことは
京阪地方では稀な現象で、其の内二、四、五の三回の地震は
京都大阪神戸宮津豊岡洲本等の各測候所で驗測され、述者は
其等の記象紙を用ひて結果を表にして示して居る。獨り本梅
村で強震が報ぜられたことに一致して初期微動の繼續時間か
ら求めた震央は三回とも本梅村の邊にある。又震度の分布は
西北西に長い形を示してゐる。震源の深さは十秒等初期微動
繼續時間圓の短半径を以てする方法に依ると十五軒内外とな
り、震央距離、初期微動繼續時間、大森系数を用ひて計算す
ると五月三十一日は二一軒、六月四日は六軒、六月六日
のは三軒となる。此の地震は鄉村斷層の延長線上かとも思は
れる地點に發生して居る事や、昨年十月十七日石川縣大聖寺
附近の小破壊地震以來所謂淀川地震帶より多少北西に寄つた
地帶上に次に掲げる様な稍顯著な地震や小區域地震が連發し
てゐる事は注意に値する。この地帶上の地震と云ふのは次の
ものである。

- A、昭和五年一〇月一七日 大聖寺附近 顯著地震
- B、同 一二月六日 淡路島北西 稍顯著地震
- C、昭和六年三月二一日 四國那賀川上流 小區域地震
- D、同 五月三日 琵琶湖北東 小區域地震
- E、同 五月三十一日 龜岡西方 小區域地震
- 六月六日 ADEBを連ねた一線は地帶の縫合線で淀川地震帶の西邊を
限るものかと思はれる。又過去十箇年間に起つた此の附近の